

東京特許許可局特許取締サービス仕様書

東京特許許可局 特許ソリューション技術本部
特許 太郎

第0.1版

1. Azure Stack 1902

Azure Stack 1902 Update が公開されました。気になった個所をまとめます。

AzS Update - 1.1902.0.69 was released. [#AzureStackJP](#)

— こんごー (@kongou_ae) [2019年3月6日](#)

参考 : [Azure Stack 1902 update](#)

Azure Stack の基盤を構成する VM (Infrastructure Role Instances) の一つである ERCS VM の必要メモリが、8G から 12G に増加しました。ERCS VM は 3台構成なので、3台合計で 12G のメモリが Azure Stack の基盤側で必要になります。ERCS VM のメモリ不足によるトラブルが起きたこともあるので、抜本的な対策を講じたのでしょう。

Azure Stack の基盤を構成する VM (Infrastructure Role Instances) の一つである ERCS VM の必要メモリが、8G から 12G に増加しました。ERCS VM は 3台構成なので、3台合計で 12G のメモリが Azure Stack の基盤側で必要になります。ERCS VM のメモリ不足によるトラブルが起きたこともあるので、抜本的な対策を講じたのでしょう。

Azure Stack の基盤を構成する VM (Infrastructure Role Instances) の一つである ERCS VM の必要メモリが、8G から 12G に増加しました。ERCS VM は 3台構成なので、3台合計で 12G のメモリが Azure Stack の基盤側で必要になります。ERCS VM のメモリ不足によるトラブルが起きたこともあるので、抜本的な対策を講じたのでしょう。

Azure Stack の基盤を構成する VM (Infrastructure Role Instances) の一つである ERCS VM の必要メモリが、8G から 12G に増加しました。ERCS VM は 3台構成なので、3台合計で 12G のメモリが Azure Stack の基盤側で必要になります。ERCS VM のメモリ不足によるトラブルが起きたこともあるので、抜本的な対策を講じたのでしょう。

Azure Stack の基盤を構成する VM (Infrastructure Role Instances) の一つである ERCS VM の必要メモリが、8G から 12G に増加しました。ERCS VM は 3台構成なので、3台合計で 12G のメモリが Azure Stack の基盤側で必要になります。ERCS VM のメモリ不足によるトラブルが起きたこともあるので、抜本的な対策を講じたのでしょう。

Azure Stack の基盤を構成する VM (Infrastructure Role Instances) の一つである ERCS VM の必要メモリが、8G から 12G に増加しました。ERCS VM は 3台構成なので、3台合計で 12G のメモリが Azure Stack の基盤側で必要になります。ERCS VM のメモリ不足によるトラブルが起きたこともあるので、抜本的な対策を講じたのでしょう。

Azure Stack の基盤を構成する VM (Infrastructure Role Instances) の一つである ERCS VM の必要メモリが、8G から 12G に増加しました。ERCS VM は 3台構成なので、3台合計で 12G のメモリが Azure Stack の基盤側で必要になります。ERCS VM のメモリ不足によるトラブルが起きたこともあるので、抜本的な対策を講じたのでしょう。

2. 新機能

1902 Update では新機能がリリースされませんでした。そもそも、リリースノートに New features の章が存在しません。残念。

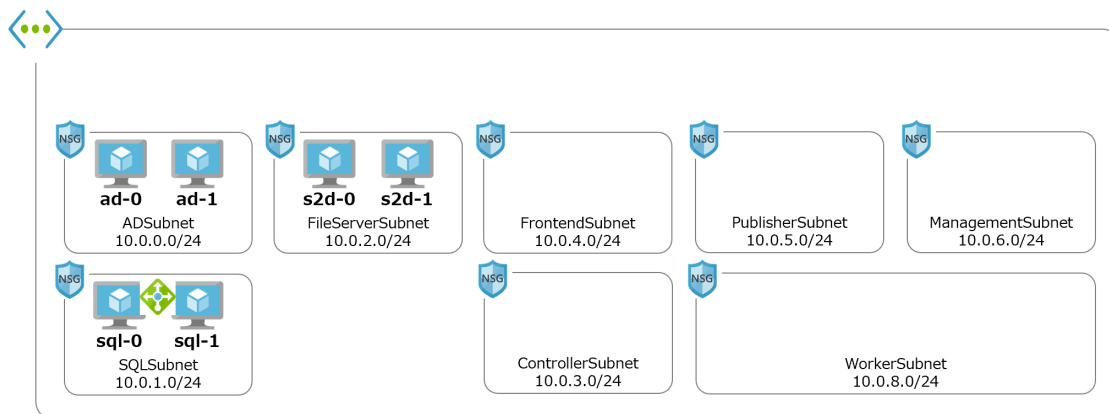


図1. App Service の全体図

表1. 利用するFQDN一覧

No	管理者	利用者
1	adminportal.region.fqdn	portal.region.fqdn
2	adminmanagement.region.fqdn	management.region.fqdn
1	adminportal.region.fqdn	portal.region.fqdn
2	adminmanagement.region.fqdn	management.region.fqdn
1	adminportal.region.fqdn	portal.region.fqdn
2	adminmanagement.region.fqdn	management.region.fqdn
1	adminportal.region.fqdn	portal.region.fqdn
2	adminmanagement.region.fqdn	management.region.fqdn
1	adminportal.region.fqdn	portal.region.fqdn
2	adminmanagement.region.fqdn	management.region.fqdn
1	adminportal.region.fqdn	portal.region.fqdn
2	adminmanagement.region.fqdn	management.region.fqdn
1	adminportal.region.fqdn	portal.region.fqdn
2	adminmanagement.region.fqdn	management.region.fqdn
1	adminportal.region.fqdn	portal.region.fqdn
2	adminmanagement.region.fqdn	management.region.fqdn
1	adminportal.region.fqdn	portal.region.fqdn
2	adminmanagement.region.fqdn	management.region.fqdn

2.0.1. aaaaa

aaaaaaaaaaa

aaaaa

aaaaaaaaaaa

aaaaa

aaaaaaaaaaa

3. 不具合修正

1902 Update のリリースノートには、Fixed issues の章も存在しません。1901 Update で主要な不具合を改修しつくしたのでしょうか。known issueはまだたくさんあるのですが・・・

参考：[Known issues \(post-installation\)](#).

4. 変更点

4.1. Plan と Offer、Quota の設定方法

Plan と Offer、Quota の設定画面が変わりました。2019年3月時点の Azure Stack ポータルのように、設定項目がタブで表示されるようになりました。

参考 : [Create a plan \(1902 and later\)](#).

4.2. ERCS VM のリソース拡張

Azure Stack の基盤を構成する VM (Infrastructure Role Instances) の一つである ERCS VM の必要メモリが、8G から 12G に増加しました。ERCS VM は 3台構成なので、3台合計で 12G のメモリが Azure Stack の基盤側で必要になります。ERCS VM のメモリ不足によるトラブルが起きたこともあるので、抜本的な対策を講じたのでしょう。

In build 1902, the memory required by the ERCS infrastructure VM was increased from 8 GB to 12 GB. On an ASDK, this results in a 4 GB increase. On an Azure Stack integrated systems installation, it is a 12 GB increase.

参考 : [Known issues \(post-installation\) / Compute](#)

過去にも Infrastructure Role Instances のリソースが追加されたことがありました。1台構成だったポータル用 VM が1台増えて合計2台になったり、2台構成だった VPN Gateway 用の VM が1台増えて合計3台構成になったりと、Microsoft は気軽に Infrastructure Role Instances を拡張します。Microsoft が基盤側で使うリソースを勝手に増やす前提で、Azure Stack のキャパシティ計画にはゆとりをもったほうがよさそうです。

5. まとめ

ブログのネタになりそうな新機能がまったくリリースされませんでした。残念です。1か月間ブログのネタがないことが短期的な悩みです。1903 Update に期待します。

6. Azure Stack 1903

Azure Stack 1903 Update がリリースされました。

[#AzureStack](#) 1903 update is out. <https://t.co/hO2cPXWTCu>. ~16h to update

— Vijay Tewari (@vtango) [2019年4月3日](#)

7. ASDK

1903版の ASDK はリリースされませんでした。今までは Integrated systems のリリースに追隨して ASDK もリリースされていたと思います。リリースされなかった理由は目立った新機能や改善がなかったからだと思いますが、事情が気にになります。

- ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。
- ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです
- ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。

それ以外にもつぎのようなこのがあります。

1. ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。
 1. ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。
 2. ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。
2. ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです
3. ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。ご飯が食べたいです。

8. Integrated Systems

8.1. アップデートにかかる時間

1903 Update 以降、Microsoft はアップデートの適用にかかる見込み時間を教えてくれるようになるようです。

Future updates will provide similar guidance on the expected time the update takes to complete, depending on the payload included.

引用 : [Improvements](#)

この運用は本当にありがたいです。Azure Stack Integrated Systems のアップデートは自動で行われます。そのため所要時間が全く読めません。仕方がないので「過去の実績からすると、20時間から30時間、30時間を超えることもある」というデタラメな予想をもとに対応せざるを得ませんでした。今後は、Microsoft が見込みではあるものの所要時間を教えてくれるようになるので、アップデートの適用スケジュールを多少組みやすくなります。

8.1.1. ほげ

8.1.2. ほげ

8.2. Public IP Address の Idle timeout

Public IP address の Idle timeout が設定値に関わらず4分で動作する？という不具合が改修されました。不具合が改修されたのは良いことですが、このような不具合を過去のリリースノートで見た記憶がありません。中身を自分で設定できない Azure Stack Integrated Systems は、利用者と Microsoft との信頼関係で成り立っていると思いますので、不具合のサイレント修正はやめてほしいです。。

9. おわりに

1902に続いて1903も目立った新機能がない Update でした。ブログのネタがありませんので、Azure の Virtual Machine と Azure Stack の Virtual Machine を Azure の運用管理サービスでまとめて運用する Hybrid Cloud Management な領域に踏み込んでいこうと思います。